

4-1-17 薬剤部

1. 概要、特色

薬剤部では、当院の特色であるIT化における機器を積極的に活用し、薬歴データベースの構築とリスクマネジメントに大きく関与している。また、今年度では、「妊娠・授乳と薬」相談外来にスタッフとして参加し、さらに他施設との共同研究などにも力を注いでいる。

薬歴データベースは、従来から行われていた処方歴の蓄積ではなく、患者さまへ実際に医薬品が投与された際に記録される実施歴を蓄積している。これは、将来疫学調査等による小児薬用量の設定や妊婦・授乳婦への医薬品の投与歴として活用が期待される場所である。

リスクマネジメントでは、薬剤部にて調剤を行った医薬品に対してバーコードを付与することにより、患者さまへの誤投与を防止することに役立っている。

医薬品情報管理業務としては、特に周産期・小児の薬物療法の情報収集に取り組み、最新の学術論文をベースに医薬品情報を提供している。その情報を基に、平成15年11月からは周産期診療部との協力で、「妊娠・授乳と薬」相談外来を開設し、薬剤師もスタッフとして外来に参加し、患者様から好評を得ている。妊娠・授乳時の服薬は、患者様、医療従事者共に不安を抱える重要なテーマでありながら情報収集が困難な問題であり、今後も長期的に情報の集積を図る。

また他施設との共同研究として、小児科領域における薬物療法の適正化を目指し、医薬品適応外使用の改善及び、小児科領域の治験・臨床試験の推進に向けて小児薬物療法ネットワークの構築に力を注いでいる。今年度も厚生労働科学研究として小児専門医療施設、大学病院、国立病院機構等の32施設の協力を基に、小児薬物療法におけるデータネットワークの研究を継続している。

2. 平成15年度薬剤部員

薬剤部長：石郷岡均

副薬剤部長：飯島道生

主任薬剤師：荻原正嗣、石川洋一、相良眞一、山口正和、石井哲治、坂本治彦

薬剤師：伊藤博、三富玲、中島研、富澤宣明、林希実子

賃金薬剤師：深田暁子、新倉輝子（旧姓：村越）、西村好子、石井真理子、宇井千枝子

薬剤助手：関根純子

<転入>

石郷岡均（H15.4.1～ 薬剤部長、国立千葉病院より転入）

石井哲治（H15.10.1～ 主任薬剤師、国立国際医療センターより転入）

林希実子（H15.10.1～ 薬剤師、国立甲府病院より転入）

<転出>

吉野信次（H15.4.1～ 薬剤部長、国立国際医療センターへ転出）

蟻川勝（H15.10.1～ 主任薬剤師、国立横浜医療センターへ転出）

花満裕（H15.3.31 賃金薬剤師、退職 国立がんセンター東病院にて採用）

龍島靖明（H15.3.31 賃金薬剤師、退職 国立水戸病院にて採用）

<退職>

稲垣博美（H15.9.30 薬剤師、退職）

3. 平成15年度業務実績

1) 処方せん枚数：入院 68,548 枚、外来院内 25,249 枚、外来院外 77,852 枚

- 2) 注射処方せん枚数：入院 229,002 枚、外来 21,750 枚
- 3) 薬剤管理指導：実施患者数 1,008 人、請求件数 1,084 件、退院時服薬指導加算 635 件
- 4) 薬剤情報提供：21,299 件
- 5) 院内製剤加算：実施件数 647 件、請求件数 476 件
- 6) 無菌製剤加算：実施件数 18,468 件(IVH8,600 件、抗悪性腫瘍 17 件)、請求件数 5,933 件
- 7) 注射薬混注件数：9,851 件
- 8) 医薬品安全性情報報告件数：2 件
- 9) 院外処方せん発行率：75.3%
- 1) ~8)は H15.4 ~ H16.3 の合計、9)は H15.4 ~ H16.3 の平均

4. 薬剤部にて実施した研修および勉強会

薬剤部では、平成 14 年 4 月より毎週木曜日の 17 時 30 分より約 1 時間、薬剤部員の研鑽と資質向上を目的として勉強会を開催している。

<平成 15 年度の開催実績>

開催回数：57 回、演題：57 題(内訳は、製品概要説明会 20 回、治験説明会 8 回、業務検討会 2 回、学会向け予演会 3 回、その他 24 回)となっている。

5. 薬剤部員による研修等の講演

<院外>

1. 山口正和： 薬剤管理指導業務の実際。 第 7 回新任薬剤師研修会，関信地区国立病院療養所薬剤師会，2003.6.7

<院内>

1. 相良眞一： 処方・注射オーダーと医薬品管理について。 平成 15 年度新採用者研修，国立成育医療センター，2003.4.3
2. 荻原正嗣，坂本治彦： 間違いやすいオーダーと処方。 リスクマネジメント研修，国立成育医療センター，2003.4.21
3. 相良眞一： 処方・注射オーダーと医薬品管理について。 平成 15 年度新採用者研修，国立成育医療センター，2003.5.1
4. 石川洋一： 治験管理室における安全対策。 リスクマネジメント研修，国立成育医療センター，2003.9.22

6. 研究助成金による研究

1. 石川洋一(主任研究者)，山口正和(分担研究者)： 平成 15 年度 厚生労働科学研究費補助金 医薬品等医療技術リスク評価研究事業 小児薬物療法におけるデータネットワークのモデル研究について
2. 蟻川 勝，坂本治彦(分担研究者)： 平成 15 年度 国立病院・療養所共同基盤研究 投薬注射に関わるリスクマネジメントと薬剤業務における費用対効果の検討
3. 石川洋一(分担研究者)： 平成 15 年度 国立病院・療養所共同基盤研究 政策医療に関する医療技術研究 政策医療における治験推進ネットワークを利用した治験業務の取り組みに関する研究

7. その他

1. 西村好子： 医療用医薬品と一般用医薬品について。 国立成育医療センター成育すこやかジャーナル第 7 号，2003.5.23

2. 坂本治彦： おくすりの飲ませ方． 国立成育医療センター成育すこやかジャーナル第 8 号，
2003.6.18
3. 薬剤部： 薬剤部を訪ねて． 臨床のあゆみ，2003.7
4. 深田暁子： おくすりを飲む時間について． 国立成育医療センター成育すこやかジャーナル
第 9 号，2003.7.9
5. 飯島道生： 飲み物・食べ物と薬． 国立成育医療センター成育すこやかジャーナル第 10 号，
2003.8.7
6. 村越輝子： なぜお薬は決められた通りに飲むのか？（血中濃度のお話）． 国立成育医療セン
ター成育すこやかジャーナル第 11 号，2003.9.5
7. 石川洋一： 治験について． 国立成育医療センター成育すこやかジャーナル第 12 号，
2003.10.8
8. 関根純子： 病院薬剤師の仕事． 国立成育医療センター成育すこやかジャーナル第 13 号，
2003.11.11
9. 荻原正嗣： 解熱薬について． 国立成育医療センター成育すこやかジャーナル第 14 号，
2003.12.4
10. 宇井千枝子： 薬の使用期限について． 国立成育医療センター成育すこやかジャーナル第 15
号，2004.1.8
11. 三富玲： 院外処方せんと保険薬局． 国立成育医療センター成育すこやかジャーナル第 16 号，
2004.2.6
12. 林希実子： 後発医薬品について． 国立成育医療センター成育すこやかジャーナル第 17 号，
2004.3.9